

氏名	吉野内 光 夫
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	博乙第 2040 号
学 位 授 与 の 日 付	平成元年 9 月 30 日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	抗 BrdU 抗体と Ki-67 を用いた子宮癌の増殖能の検討
論 文 審 査 委 員	教授 赤木忠厚 教授 折田薫三 教授 佐藤二郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

二つのモノクローナル抗体，抗 BrdU 抗体と Ki-67 を利用した免疫組織染色を子宮頸癌12例，子宮内膜癌13例，正常子宮腔部18例，正常増殖期内膜11例の計54例について行い，抗 BrdU 抗体を用いた S 期細胞の同定と labeling index: LI (%) の算定，ならびに Ki-67 を用いた増殖期細胞の同定と growth fraction: GF (%) の算定とを行い，子宮癌における増殖能の検討を行った。LI, GF とともに子宮頸癌が最も高く (LI: 160 ± 6.0 , GF: 322 ± 112) ついで子宮内膜癌 (LI: 159 ± 5.0 , GF: 262 ± 9.0)，正常内膜 (LI: 122 ± 6.1 , GF: 203 ± 6.8)，正常子宮腔部 (LI: 6.9 ± 3.1 , GF: 114 ± 5.0) の順に高値を示し，癌組織における増殖能の高さが確認された。扁平上皮癌と腺癌とでは，扁平上皮癌の方が高い増殖能を示した。GF (Y) と LI (X) は $Y = 1.44X + 3.39$ ($r = 0.80$) と高い相関関係を示し，癌，非癌をとわず LI は GF のおよそ 60~70%であった。

以上より，LI, GF はいずれも増殖能の指標として有用であるが，GF はその簡便性の面から，臨床的応用により適した growth potential marker であると判断された。さらに，Ki-67 を用いた子宮内膜擦過細胞診断材料についても免疫組織染色を試み，その陽，陰性の判断が，子宮内膜癌のスクリーニング法の一助として応用可能であることが確認された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は，抗 BrdU 抗体と Ki-67 を用いて子宮癌の増殖能を検討したものであるが，子宮癌の増殖能を判定するマーカーおよび子宮内膜癌スクリーニング法としての，Ki-67 による増殖期細胞比率算定の有用性を明らかにしたものとして価値ある業績である。

と認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。